いわて未来づくり機構だより

～第 13 号～

発行日　平成 24 年 3 月 20 日

「いわて未来づくり機構」は、県内各界、各層の組織の横断的かつ意欲ある「参画」「連携」を実現し、さらに、各組織の知恵を結集し、スピード感を持って「実践」することにより、地域の総合的な発展を目指す新しいネットワークです。

会員の皆様には、益々御清栄のこととお喜び申し上げます。今年度、「いわて未来づくり機構」は、東日本大震災津波からの復旧復興をテーマに活動しています。
本号では、去る２月 17 日(金)に開催された平成 23 年度第３回ラウンドテーブルを中心に報告いたします。

事業報告

H23 第３回ラウンドテーブル

1　はじめに

平成 24 年 2 月 17 日(金)の 14 時から、岩手銀行(第 1 会議室)において、平成 23 年度第 3 回ラウンドテーブルが開催されました。
今回は、最初に各作業部会の活動状況が報告されました。
次いで、来年度、新たに設置される「観光作業部会」について協議が行われました。
最後に、「国際リニアコライダー(ILC)計画について」 をテーマに、ラウンドテーブルメンバーによるディスカッションが行われました。

2　部会の報告

○　第２作業部会

東日本大震災津波で被災した沿岸地域の産業復興支援(特にものづくり企業)をテーマとしており、1 月 6 日に第 20 回目の作業部会を開催して、沿岸被災地域(宮古・釜石)のモノづくり産業の状況と復旧・復興に対する要望事項の調査を行いました。

○　第４作業部会

震災復興のための人材育成事業と連携した取組をテーマとしており、昨年 11 月 28 日には、久慈市での人材育成プログラムである「第 1 回Kuji Kafe」を開催し、「再生可能エネルギーに着目した久慈地域の未利用資源の可能性」について意見交換しました。第 2 回は、3 月 21 日に、やませ土風館において「よそ者・若者・馬鹿者視点による地域活性化」をテーマに開催。
また、去る２月 11 日から２日間、八幡平市と共同で実施している人材育成プログラムの一貫として、廃坑を利用して「絆」をテーマに雪まつりを開催し、陸前高田市にある「希望の灯り」の分火式や地域住民と共同での雪像づくりやキャンドルナイトを行いました。

○　公募型復興企画推進作業部会

国内外からの支援と被災地域のニーズとのマッチングなどを目的として活動しています。昨年 12 月 18 日には、宮古短期大学において、「いわて三陸　復興のかけはしプロジェクト」の周知及び復興を担う人材育成を目指して、平田オリザ大阪大学教授の指導の下、第 1 回ワークショップ　いわて三陸の復興かけはし」を開催しました。また、このワー

クショップに先立ち、達増岩手県知事と平田オリザ教授の講演も行われました。
また、2 月 19 日に釜石市で第 2 回ワークショップを開催しました。

3　観光作業部会の設置について

○　経緯
平成 22 年度に設置が決まっていましたが、震災で 1 年間延期されていたものです。

○　担当機関
岩手県商工会議所連合会が担当機関になることとされました。

○　取組テーマ
ラウンドテーブルでの議論を踏まえつつ、企画委員会で調整して方向付けを行い、作業部会に示すこととされました。

○　部会メンバー
今後、担当機関において人選を進めることとなりました。

○　設置期間
当面、2 年間とされました。

4　ディスカッション

「国際リニアコライダー（ＩＬＣ）計画について」というテーマでラウンドテーブルメンバーによるディスカッションが行われました。
この中で、次のような誘致に向けた積極的な議論が交わされました。

○　ＩＬＣは、世界と協力しながら日本を復興するものになりうる。
○　東北復興のグランドデザインをつくってＩＬＣを位置付けていくべき。
○　研究者が長期滞在できる環境整備が大切。

《参考》　国際リニアコライダー計画の概要

(1)　31～50ｋｍの直線の地下トンネルに建設される素粒子物理学分野の大規模研究施設
(2)　日米欧のいずれか一か所に建設予定
(3)　事業費は 8,000 億円、建設期間 5～7 年、従事研究者延べ 5,000 人
(4)　稼動後は、世界の研究者 1,000 人以上が常駐
(5)　施設内の真空パイプの両端から電子と陽電子のビームを入射し、光速で衝突させた瞬間に発生する素粒子を観測することにより、宇宙の起源の解明を目指すもの
(6)　国際物理学会の下で「国際将来加速器委員会」が推進。また、各国政府の財政担当からなる「予算当局委員会」で非公式に情報交換（日本は文部科学省が参画）

[スケジュール]

時期	内容
①　2007 年	概念設計
②　2010 年第 2 四半期	トンネル仕様決定
③　2012 年	工学設計終了
④　2010 年代後半	建設
⑤　2020 年代	稼動開始

＊　なお、ラウンドテーブルの概要は、機構のホームページで御覧いた だけます。

会員の皆様へ

■　機構のＰＲについて

現在、作業部会が被災した沿岸地域をはじめ県内各地で活動を行っていますが、「いわて未来づくり機構」の存在が必ずしも十分に周知されていない状況にあります。
新年度を迎えると会員の皆様の総会等が開催されることと思いますので、そのような機会などに機構のＰＲをお願いできれば幸いです。
なお、機構のＨＰに掲載されている資料等については、自由にダウンロードして御活用ください。

■　事務局担当の交代について

平成 24 年 3 月末をもって、2 年間機構の事務局を担当してきた岩手県庁の和山敏秀主幹兼特命課長は異動となります。長い間お世話になりました。

いわて未来づくり機構　事務局からのお知らせ

会員各機関の代表者、担当者、メールアドレス等に変更があったら、事務局までお知らせください。

〒020-8570　盛岡市内丸 10-1　電　話：019-629-5195（FAX019-629-5254）　E-mail：tayama- ken@pref.iwate.jp
ホームページ　http://iwatemirai.com/